



キャンプをどう活かすか

守田 富男

Morita Tomio

熊本YMCA副会長
ウエルネス事業委員会委員

▼YMCAスタッフのいない場所で始まった八代デイキャンプ

1998年にスタートした『YMCAデイキャンプ in 八代』は、昨年22回目を迎えることができました。熊本県南に位置する八代市には、いわゆるYMCAランチといわれる拠点はありません。八代ワイズメンズクラブと熊本YMCAが協力し、毎年実施してきました。YMCAキャンプには、子どもを惹きつける魅力があります。YMCAのスタッフを除けば、みんなキャンプの素人ですが、八代の子もたちに「人、自然、文化など本物に触れる」体験を提供したいという願いのもと続けてきました。



▼子どもたちとリーダーの成長

キャンプでは、川遊び、調理体験、ヨット教室、海水浴、理科実験、社会見学など様々なプログラムを展開します。「本物に触れる」体験を通して、郷土の素晴らしさを知り、自分の中にある「神様からいただいた宝物」を見つけてくれたら嬉しいです。

小さな成功体験の積み重ねを自己肯定感につなげて、失敗も成功も体験し、ありのままの自分を受容し「何とかできる、何とかする」逞しさを身につけていくことを願っています。

キャンプには、リーダーの存在が必要不可欠です。リーダーには、教育者、指導者というよりも、子どもたちを見守り、自分らしくいられる存在であってほしいと思っています。キャンパーからリーダーへと育っていくユースが多くいます。

横のつながりと縦のつながりを大切にしながら、子どもたちとリーダーが共に成長できるキャンプであり続けたいと思います。



▼これからのY M C A キャンプの期待

ファッションとしてのキャンプがブームになってきました。この機会を捉えて、Y M C A キャンプの魅力をもっと発信していきたいと思います。キャンプをどのように活かすか、100年の歴史を振り返りつつ、今の時代にマッチしたプログラム開発が必要だと思えます。

ゲームやバーチャルな空間では味わえない、本能を呼び覚ますリアルな体験こそキャンプの醍醐味です。キャンプから帰ったあとも、メンバーとリーダーが、それぞれの置かれた場所で花を咲かせる、そのような品性を育てるY M C A キャンプであって欲しいです。



Profile



1954生まれ。B型 水瓶座。
Y M C A との出会いは30年前、
牧師先生から八代ワイズメンズクラブ設立に誘われた
ことがきっかけ。奥様もワイズメンバーです。
マラソン、トレイルラン、ロードバイク、ドローンな
どを楽しむ趣味人。退職後もSNSを通して趣味やボ
ランティアの仲間との交流を楽しんでいます。
モットーは、「オファーは、断らない」です。

【取材：熊本Y M C A 山田真二】